

静岡

静岡県は、「静岡県の農業に革新を起こす!」をモットーに、「先端農業推進プロジェクト」を推進する。

直近の静岡県の農業生産額は、2,154億円(平成26年度、全国15位)と、昭和60年代以降は減少傾向が続き、近年、横ばいを辿っている。今後、わが国の人口減少に伴い、農業生産人口の減少、農業生産額の減少が進むことが想定される。そうした傾向を打開するため、先端科学技術を活用した農作物の高付加価値化、低コスト化による技術革新力・生産力の向上が必要不可欠と、静岡県は判断した。

そのため、先進農業国や他産業に比べて活用が遅れている先端技術を積極的に導入し、農業の生産性革新を支援する「先端農業推進プロジェクト」を進める。先端的な科学技術を有する県内外の研究機関や、ものづくり技術を有する企業等が、協創して農業の生産性革新に取り組むための農業版オープンイノベーション・プラットフォームを構築し、農業産出額の飛躍的な向上に繋げようとしている。

農作物の高付加価値化のため、「静岡県発、世界の健康寿命の増進に貢献する」という大きな目標

を掲げ、健康に良いと検証された機能性の高い農作物の生産技術を高めていく。アグロメディカルフーズ(AMF)の考え方を取り入れ、国内の医師や研究者で構成する一般社団法人アグロメディカルフーズ研究機構^{※1}との協力を強める。

また、低コスト化のためには、ものづくり企業の生産ノウハウを取り入れ、農業コンサルティング企業の知的財産ノウハウを農業分野に活かした、新たな農業生産システムづくりを支援する。

現在、それら取組みの象徴的拠点となる「先端農業イノベーションセンター(仮称)」(平成29年度開所予定)の整備を進めている。同拠点は、東海大学旧沼津校舎を活用する。

新拠点施設の目玉として、「次世代型栽培実験装置」がある。本装置は、静岡県が、理化学研究所と慶應義塾大学と共同開発したもので、光(量・質)、CO₂濃度、温湿度などを制御した閉鎖型の環境下で、農作物の生育環境をモニタリングし、最適な栽培環境条件を導き出すことができる。得られたデータをもとに、太陽光利用施設や露地栽培への応用・展開を図る。また拠点に、解析機器や分析機器を常設する等、企業等の研究開発を支援する機能も設ける。

新拠点施設は、東海大学旧沼津校舎の4号館(地下1階、地上5階建て)を活用し、地上2階までを改修する。

1階は、事務室が入る管理運営ゾーンと、前記装置を設置し、県や学術・研究機関等が共同で研究にあたる次世代栽培研究ゾーンとに分かれる。

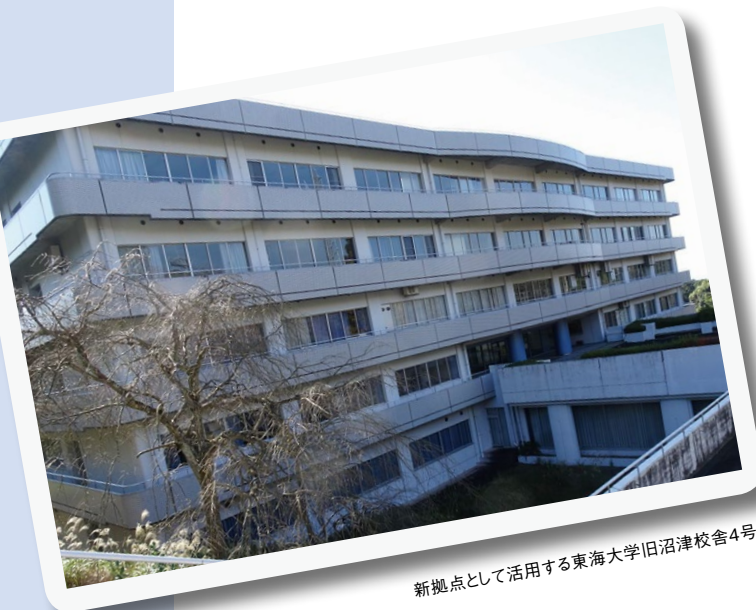
2階は、研究開発を行う企業等が入居するスペースとなり、貸研究室として約50m²が12室、約25m²が3室のほか貸会議室が設けられる。

この拠点を活用して研究開発する企業等は、県が研究テーマの公募を行い、提案企業等の入居を優先する。入居費用は、1部屋月額約2万円(光熱水費、共益費を除く)と、静岡県や学術・研究機関等とのオープンイノベーションによる研究開発を始めたい企業にとって魅力的に映る。公募は、9月9日から10月28日まで約2ヵ月間行う^{※2}。

※1 一般社団法人アグロメディカルフーズ研究機構
URL:<http://amfo.or.jp>

※2 静岡県農業戦略課
URL:<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-310/>

「先端農業推進プロジェクト」におけるイノベーション拠点



新拠点として活用する東海大学旧沼津校舎4号館